

一 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

日本はアテンネン魚の漁獲は減少傾向で、養殖生産は伸び悩んでいます。そして、頼みの網の輸入も日本の購買力の低下と国際的な魚価の上昇によって、減少傾向が鮮明です。①私たちの食卓から、どんだん魚が消えつつあることはこれらの資料からも明らかです。日本人はもともと昔から多くの魚を食べていたイメージがありますが、実はそうではありません。農林水産省がイコウヒョウしている「食料※需給表」では1960年までデータをさかのぼれるのですが、水産物の消費量のピークは2001年であることがわかります。

冷蔵庫がない時代には、漁村以外ではそう頻繁に魚を食べられなかったはずで、日本人全体がウニチジヨウ的に魚を食べるようになったのは、昭和の高度経済成長期にテレビ、洗濯機とエナラぶ三種の神器として冷蔵庫が普及してからです。

(A)、「食料需要に関する基礎統計」という資料では、1911～25年の魚介類の消費量は1人当たり年3.7キロとなっています。当時の統計がどこまでI当てになるかは不明ですが、2012年の1人当たり年間消費量が28.4キロですから、明治時代の日本人が今よりも【 ② 】のは間違いありません。

(B)、「魚食文化は当時からオソンザイし、漁村では毎日のように新鮮な魚介類を食べていたはずですが、今日のように全国的な広がりを持ったものではなかったのです。市場流通が発達していなかったために、漁村では近隣の消費量を超えて獲れた分は、海の近くの畑の肥料になっていました。

水産物の消費量のピークである2001年よりもずっと以前から魚離れが進んでいたような印象をお持ちの読者は多いでしょう。(C)、「それは③メディアの刷り込みによるものです。

朝日新聞に最初に魚離れが登場したのは1976年でした。紙面には、『魚が好き』やつと半数「一匹買わずに切り身で」「魚屋よりスーパーが好き」などといった見出しが躍っています。実に、40年前の記事ですが、今日でも通用しそうな見出しです。

水産庁の『漁業白書』では1978年に初めて「魚離れ」が登場します。当時は、200海里の排他的経済水域設定で海外漁場から追い出された上に、魚の値段が上がって食肉との価格差がなくなりつつあり、魚の売れ行きが悪くなるのが懸念されていました。そこで、業界のために「販売促進」をしたのでしょうか。実際に食用となる国産魚の供給はこの時点から減少のII一途をたどりますが、④それを補う形で輸入が増えることで、日本人1人当たり1年間の水産物消費量は、2001年まで増加を続けるのです。

水産省がメディアに魚離れの問題を※コンスタントに流すことで、あたかも魚離れが進んでいるような雰囲気は社会に※醸成されていきましたが、実際に進んでいたのは「国産魚の供給不足」だったわけです。

2001年を境に水産物の消費量が減少に転じた理由は、前述したように世界の魚価が上昇し、購買力の低下した日本が魚を海外から買えなくなったからです。海外から買うことができなくても、日本近海でたくさん魚が獲ればいいのですが、それがだんだん獲れなくなっているのです。スーパーでは、豚肉や鶏肉に対して魚は割高になり、種類も少なくなっています。ですから、今の状況は「日本人の魚離れ」というよりも、「⑤」といったほうが適切かもしれません。

(勝川俊雄『魚が食べられなくなる日』より)

※ 需給 …… 需要(手に入れようとする活動)と供給(提供しようとする活動)

懸念 …… 気にかかって不安に思うこと

コンスタント …… 絶え間なく

醸成 …… しだいに作り上げていくこと

〈設問〉

問一 太線部ア～オのカタカナを適切な漢字にしなさい。

問二 二重傍線部I・IIの言葉の意味として適切なものを選び、記号で答えなさい。

I 当てになる ア 目標になる イ 信じられる ウ ごまかせる エ 当然

II 一途をたどる ア 進み続ける イ 見間違える ウ 後悔する エ 道に迷う

問三 (A)～(C)に入る語句として適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ しかし ウ もちろん エ たとえば

問四 傍線部①「私たちの食卓」とありますが、理由を説明したものととして不適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 日本では養殖魚の生産量が十分ではないから。
- イ 急速な魚離れにより消費量が減っているから。
- ウ 国内で獲れる天然の魚の量が減っているから。
- エ 輸入魚介類の購買力が低下し続けているから。

問五 ②に入る言葉を本文中の言葉を用いて十字で答えなさい。

問六 傍線部③「メディアの刷り込み」とありますが、メディアはどのような雰囲気を社会で作り上げたでしょうか。本文中から二十字以内で答えなさい。

問七 傍線部④「それ」が指す内容を本文中から六字で答えなさい。

問八 「⑤」に入る言葉を本文中の言葉を用いて六字で答えなさい。

問九 波線部「水産物の消費量の」とありますが、消費量が増加した理由として適切であれば○、そうでなければ×と答えなさい。

- ア 昭和の高度経済成長長期に冷蔵庫が普及し、保存できるようになったから。
- イ 漁村で消費する限界を超えてしまい、輸出しなければならなかったから。
- ウ 市場流通が発達することで、全国に魚介を消費できるようになったから。
- エ 海外漁場から追い出されたため、海産資源を節約する必要があったから。
- オ 魚介類の売上げが悪くなることを懸念したメディアに影響を受けたから。

二 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

小学生の麻利と美保子は在校生全員で贈る小学六年生へのプレゼントとして、ランタンを飛ばす「願いとばし」を提案した。

「ちょっと待ってください」

自然と組んでいたのひらから、ふっと力が抜けた。

「勝手に何言ってるのよ、麻利。合唱って決まってるじゃん、あたしたちのクラス。それに、①もつと冷静に考えたほうがいいと思います。そもそも、そんなにたくさんランタン、どこにあるんですか？」

絶対に見つからないように隠していた箱のふたに、そつと手を添えられたような気持ちがあった。

「それは、学校がア役場？ から買うとか……いろいろ方法は」

②美保子の声我突然くもる。台本の外側の部分に立たされているということが丸わかりだ。

「そもそもランタンは作られていないって聞きました。うちのお父さん、役場にイ勤めてるから、そういうのわかるんです。飛ばすランタンはどこにもないのに、願いとばしなんてできるわけないです。無理だと思います」

ランタンを手に入れる具体的な方法。それは作戦会議でも、「きつと学校がどうにかしてくれる」という結論しか出ていなかった。先生たちオトナは、太輔たちの知らない力をたくさん持っている、コドモじゃどうにもできないことをどうにかしてくれるはずだよねと、そんなことを言い合っている問題を片付けていた。

「先生はどう思いますか？ ③こんなの無理ですよね？」

そうだなあ、と、男の先生の声がする。

「願いとばしが復活するっていうのは確かにわくわくしたけど」先生はここで少し唸った。「ランタンの生産が止まってるなら、難しいだろうな。それ以外にも、たぶん、消防署の許可が必要になってくると思うし。まあ、何よりランタンがないってことがな……」④

いい案だとは思うけど、と言ったきり、先生はウ黙ってしまう。

「いまの聞いてた？ 麻利」

泉ちゃんは勝ち誇ったように話す。

「ていうかあんだ、クラスのみんなの意見ムシして何言ってるのよ。いまのこと、みんなに言うから」

泉ちゃんの声が、ドアも何も挟まずに、直接自分の耳にエ届いたような気がした。「そんな言い方をするな。もう座りなさい」先生がそうIたしなめたけれど、太輔には、泉ちゃんはまだ立ったまま麻利のことを見下ろしているように思えた。

「ど、どうしょ」

こんなん台本にあらへんで、と、淳也がオロオロし始める。どうにかしたいけれど、このドアの向こうに行くわけにはいかない。あまりにも何もできなくて、太輔はIIもどかしさを感じた。

そのときだった。

「そんなん、うちが作る」

麻利の大きな声に続いて、ガッシャンと何か硬いものオ同士がぶつかるような気がした。

「何言ってるの、⑤そんなのムリ」

「ムリやない」

カシャンカシャン、と、音の余韻が響いている。麻利が立ち上がったのと同時に、椅子が後ろに倒れたのだろう。

「なんですぐムリとか言うん、なあ」

教室の中は、しんとしている。もうやめとけ、と太輔が言いかけたとき、すぐ下から、小さな小さな声が聞こえてきた。

⑥いけ、麻利。

(朝井リョウ『世界地図の下書き』より)

#### 〈設問〉

問一 太線部ア〜オの漢字のよみがなを答えなさい。

問二 二重傍線部I・IIの言葉の意味として適切なものを選び、記号で答えなさい。

- |          |          |         |          |          |
|----------|----------|---------|----------|----------|
| I たしなめる  | ア ためしてみる | イ 提案をする | ウ 注意を与える | エ 思い出させる |
| II もどかしさ | ア はがゆさ   | イ ひらめき  | ウ 確実である  | エ 強い悲しみ  |

問三 傍線部①「もっと冷静に〜」とありますが、適切な考え方を述べているものを選び、記号で答えなさい。

- ア やりたいという願望だけではなく、それが実現可能であるかを考えるべきである。
- イ 麻利はクラスの意見をムシしているので、改めてこの場の多数決で決めるべきだ。
- ウ 合唱が苦手であるからという理由だけで、全体の意見を変えてはいけなйдらう。
- エ 外に男子を待たせているということはルール違反であるので、場を変えるべきだ。

問四 波線部について、以下の問いに答えなさい。

① 波線部にふくまれている表現技法として適切なものを選び、記号で答えなさい。

- |        |       |       |      |
|--------|-------|-------|------|
| ア 体言止め | イ 擬人法 | ウ 倒置法 | エ 比喻 |
|--------|-------|-------|------|

② 波線部における美保子の心情の説明として適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 打ち明ける理由がなかった秘密を話されてしまい、悲しんでいる。
- イ 一人では心細かった本音により添ってくれることに感謝している。
- ウ 自分にとって都合の悪い話題に触れられてしまい、あせっている。
- エ しまっていた自分の気持ちに強引にふれられたことに怒っている。

問五 傍線部②「美保子の声が〜」について、声がぐももった理由を本文中の言葉を用いて二十五字以内で答えなさい。

問六 傍線部③「こんな無理ですよね」について、この時の泉の心情の説明として不適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 麻利や美保子の意見への強い否定感
- イ 自分の正当性を示そうとする自尊心
- ウ 想定外だが欠点の多い意見への怒り
- エ 他者の意見を集めようとする協調性

問七 傍線部④「いい案だとは思うけど」に続く言葉を本文中から一語で抜き出しなさい。

問八 傍線部⑤「そんなの」が指す内容を十二字で答えなさい。

問九 傍線部⑥「いけ、麻利」について、この時の淳也の心情の説明として適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 怒りにまかせて、あばれてしまおう。
- イ 言いたいことを全部、言ってしまう。
- ウ 僕に任せて、逃げ出してもいいんだ。
- エ 立場が悪くなる前に、許してもらえ。